



ぶどう荘

BUDOJYOU

押し進められたニュータウン開発によって、街から取り残されたぶどう園。一方、ニュータウンの「大家族」=「一住宅」という形式は崩壊し、家族は血縁に留まらない層やかで複雑化した関係性へ変化していく。今後AIが台頭し、SOHOの普及によって仕事形態や農業が激変していく中で、かつての生活システムであった「ぶどう」を別の方法で利用し、様々な関係性や仕事形態を受け入れる居住システムを作り出せないだろうか。「ぶどう」という環境を介して、適度な距離感で集まって住む可能性を提案する。

敷地のこと

北尾城河合町(西大和ニュータウン)
奈良正地北西部に位置する北尾城河合町中心部には開発以前よりぶどう園が点在し現在は住宅に取り残されている

家族のこと

実を度以降のぶどう園の開発状況 宅地開発計画の概要
高齢化や就業率不足により、多くのぶどう園が閉園の危機にある一方で、閉園に合わせて分譲宅地開発が行われた

↓

ぶどう園という地域のアイデンティティが失われるという問題
減少社会において従来式の宅地開発が行われることへの疑問

家族のこと

家族の枠組みが「ほじける」
「大家族」=「一戸」は崩壊し、血縁のみに限らない家族の可能性
家族の枠組みは仕事形態・暮らしなど層やかで複雑化したものに
↓

家族は「ほじけ」、関係性の枠組みは層数化し層やかになる
「ほじけた」家族の受け皿となる新たな居住システムが必要

コンセプト

ぶどう園 × SOHOの集住体 = ぶどう荘 BUDOJYOU

「ぶどう」という地域のアイデンティティが喪失するというローカルな問題
×
家族の枠組みの喪失に対応した居住システムが必要というジェネラルな問題
↓

ぶどう園という軒下空間のようなバッファー要素を利用した、「ほじけた家族」に対応できる次世代の集住体を提案する

ぶどう荘

ぶどう園を分有し、軒下空間をシェアする
ランチ系家族 マルシェ系家族
ワイン系家族 デザイン系家族

必要による領域制約

100人が住むSOHO向けの集住体であり、入居者はぶどうを軸とした複層的「家族」に属してマルシェや買い置き室を囲く住戸のほかのプログラムとしてはワイナリーがあり、醸造の際の副産物をバイオ燃料発電によって有効活用するワイナリーの排気口からの冷気と、バイオ発電設備からの排熱を上部の住戸や温室の暖房熱に利用している

ぶどう荘の一年

夏: 大規模な収穫に立てて、大規模な収穫が行われる
秋: 一部の収穫のぶどうは園内市場や物販に出荷
冬: 市民のついでに遊歩道も利用する

